



臨地実習を終えて

本学科開設以来、初めて管理栄養士になるために必修である臨地実習に、3年生が臨みました。この臨地実習は、給食管理実習Ⅱ・Ⅲ、臨床栄養学実習Ⅲ・Ⅳ、公衆栄養学実習Ⅱで構成されており、学外の病院をはじめとする集団給食施設を持つ各施設や保健所、保健センターなどにおいて、その名の通り管理栄養士が働く実際の現場を臨地体験し、実践的学習をします。

それに先立ち、前期は2年生最終月を含め夏休みを一部返上し、15週以上に渡り、臨地実習に出るための事前の学習（管理栄養士実務演習）で準備に準備を重ね備えて来ました。その結果8月30日～10月8日まで、途中休日が続く週を除いた5週間を緊張感の中で過ごし、大学内では決して学ぶことの出来ない貴重な経験を行うことが出来たようです。本年度は台風の当たり年で、臨地実習期間内に2度も台風の襲来を受けましたが、無事やり終えることが出来ました。今号では何人かの学生より自分の得られた成果や感想を述べてもらいます。

(助教授 村上 淳)

「病院実習を終えて」

脇本倫子(人間栄養学科3年)

9月6日から9月17日までの2週間、病院実習に行きました。最初の実習先という事もあり、私は緊張と不安でいっぱいでした。しかし、それ以上に期待は大きなものでした。

現場実習では、下処理や特別食の調理を少しさせていただきました。栄養指導の見学では、患者さまからの質問や返答にも適切な答えを瞬時に返し、患者さまとの何気ない会話の中からいろいろなことに気づいていくことがとても大切だと知りました。他にも、食数管理やNST、嚥下能力を知るためのVF検査、集団栄養指導など実際の現場を見たり聞いたりすることはとても興味深く、新鮮なものでした。

お忙しい中、私たちを受け入れ、指導していただいた先生方には大変感謝いたしました。二週間という長いようで短い期間で、勉強不足を感じることもや失敗してしまっただけでもあり、反省すべきことは多くありました。それでも病院の現場での、管理栄養士の実際に触れることができ、現場でしか学べないようなことを多く学べたと思います。今回、実習で得たことは、これからの学生生活はもちろん、管理栄養士となった後にも役立てていきたいと思っています。



「高梁市役所で感じたこと」

吉田 量(人間栄養学科3年)

高梁市役所へ臨地実習に行かせていただいた時の事を報告します。短い間(3日間)でしたが、かなり濃密な体験でした。主な実習内容は、市役所の仕事とその中での栄養士の役割等についての講義、健康診断の見学、健康教室への参加でしたが、それらの一つひとつについて考えさせられることが沢山ありました。

講義では行政の仕事の量や種類がとにかく多いこと、複雑なことにまず吃驚しました。そして、地域全体の生活や健康を少しでも良くするために真っ向勝負をしている方達の言葉は、ずっしりと重たく感動的でもありました。

実際の仕事現場を見学させていただき、今の自分の勉強不足を痛感しました。専門分野はもちろん、それ以外の部分(少なくとも関連分野と一般常識)についても、もっと知り、もっと出来るようにならなければなりません。この大きすぎる課題はずっと悩みの種です。

健康教室で、地域の方達と一緒に調理実習や運動(太極拳)などをさせていただいた事は得難い経験でした。特に、「いつも楽しみにしています。」と語られていた事が印象的で、この仕事の醍醐味の一つを見たような気がしました。

お世話になった方々には感謝の気持ちで一杯です。人間的にも素晴らしい、素敵な方々ばかりでした。2004年の夏の出来事は、多分一生忘れません。



「子どもたちに指導して」

吉河直子(人間栄養学科3年)

私は臨地実習で小学校に行きました。私は子どもたちへの食に関する指導に一番力を入れました。給食時に食に関する5分程度の指導を毎日させてもらい、指導する上で、まず子どもたちを知ることが大事であると感じました。子どもたちはどのくらい理解できるのか、どんなことに興味を持つのか



わからず、最初の指導では緊張も加わり苦労しました。

1～6年生の指導をすべてさせてもらったので、学年によって話し方や媒体の工夫をするということも学びました。反応も学年ごとに様々です。あらかじめ質問されそうなことを予想はしていましたが、子どもたちは予想外のことを発言します。そのたびに、必死になって答えましたが、子どもたちはちゃんと考えて聞いてくれているのだとわかりうれしかったです。

いっしょに給食を食べたり、休憩時間に遊んだり、掃除をしたり、子どもたちと関わる機会をたくさんいただき、たくさん話をすることで少しずつ指導にも慣れていきました。この実習中に、原稿を見ず相手の反応を見ながら、そして合間に話しかけながら指導するということができるようになりました。

緊張し続けの日々で辛さもありましたが、とても得ものの多い実習となりました。



「事業所実習を終えて」

宮本安以子(人間栄養学科3年)

今回、三菱電機で5日間実習を行って思ったことは、自分の作業を確実にこなすことはもちろん、作業する全ての人が助け合い、不足しているところをお互いに補うことが大切だということです。一つの作業が確実に行われていても、他のところがきちんと行われていなければそれらの作業が確実に進んでいるとは言えません。作業員全員が力を合わせることでよりよい作業ができるのだと思いました。また、定刻に合わせて調理を行うことは難しい事ですが、その大切



さを知りました。遅れることは勿論、あまり早く出来上がっても衛生面や味に影響が出るので、時間がずれることはよくありません。定刻を把握し、作業の流れをスムーズに行へるのは毎日給食を作るうちに感覚で覚え、身に付けているからこそ出来るものなのだと思います。

このように5日間と短い期間の実習でしたが、管理栄養士の先生や調理員の方にはとても丁寧に指導をしていただいて、色々なことを学び身に付けることが出来ました。

「特別養護老人ホーム実習を振り返って」

永井 涼子(人間栄養学科3年)

私は特別養護老人ホームさわらび苑で2週間お世話になりました。最初は慣れない場所で緊張していたり、ご利用者にどのように声をかければよいのか分からず戸惑うこともありました。どう接すればよいか管理栄養士の先生に相談したところ、先生自身も「最初は困った。慣れもあるのですが他の職員の接し方を見てみて。」とアドバイスをくれました。職員の方は、大きい声でゆっくりと、そしてご利用者の目線にあわせて話かけていることが分かりました。これらのことに気をつながら行くと、ご利用者は気持ち良く応じてくださり、話をすることができました。

管理栄養士は食事面からの手助けだけでなく、対象者の特徴を的確にとらえて、対応しなければいけないことを学びました。調理作業では決められた時間に食事を提供できるよう、手際よく作業することを心がけました。自分の担当の作業だけでなく周囲にも目を配り、コミュニケーションをとりながら進めていくことが必要だと分かりました。

今回の実習は事前学習など準備も大変でしたが、実際の現場でなければ体験することができないことばかりで貴重な時間を過ごすことができました。現場で活躍されている管理栄養士の先生の姿を見て、改めて将来の目標がはっきりしました。



栄養教諭免許スタート

学校健康教育分野において、これまでは管理栄養士や栄養士は、学校職員という職位で児童・生徒の健康の維持向上に対して貢献してきましたが、平成17年度からは、教諭という職位でその仕事に臨めることになりました。それが栄養教諭制度です。この栄養教諭の制度は、学校栄養職員としての食に関する専門性と教諭としての教育に関する専門性を併せ持つその現場に立てる者として今後期待されるようです。

現在児童・生徒を取り巻く食環境は以前と大きく様変わりし、一層その教育・指導は重要性を帯びてきています。その中で食に関する指導において次のような職務内容が示されています。①児童・生徒への個別的な相談指導、②児童・生徒への教科・特別活動等における教育指導、③食に関する教育指導の連携、調整などです。栄養教諭を目指し学校健康教育分野で活躍を希望する学生は、本学の準備したカリキュラムで十分に学ばれ、将来管理栄養士として子どもたちの健康の維持増進に力を尽くしていただきたいです。

栄養教諭を取得するための基礎条件は次の通りです。
①基礎資格として栄養士免許(二種)、管理栄養士免許または管理栄養士養成課程修了+栄養士免許(一種)が必要、および学士の学位が必要。

②「栄養に係る教育に関する科目」4単位、「教職に関する科目」18単位の修得 (助教授 村上 淳)

工場見学・テーブルマナー研修

中村 慶子(人間栄養学科1年)

私達1年生は2月7・8日の2日間、テーブルマナーを中心とした研修に行ってきました。1日目はヒガシマル醤油工場、キューピー伊丹工場、国立民族博物館を見学後、宿泊先の六甲山ホテルでテーブルマナーの基礎知識を学びました。



ヒガシマル醤油工場では半年間かけてもろみを作る事や、薄口醤油に甘酒を入れることなど、普段では知りえない事を学びました。キューピー伊丹工場ではマヨネーズの製造過程を近くで見ることができ、衛生管理についてとても気を遣っていることが充填作業からも感じ取れました。

2日目は人と防災未来センターを見学後、神戸の街を気のあった友達と散策しました。人と防災未来センターでは10年前に起きた阪神・淡路大震災の発生の様子や震災からの復旧・復興へ至る街の様子と人々の映像、また大震災の資料や展示を見て、忘れかけていた大震災への危機を改めて抱きました。

今回の研修は僅か2日間でしたが、全てが初めての事ばかりで、多くの発見や貴重な体験が出来、とても充実した時間を過ごす事が出来たと思います。

同窓会発足

藤井佑佳(人間栄養学科3年)

平成16年10月23日、中国学園の音楽ホールで同窓会総会が行われました。これは、本大学の母体となった短期大学栄養士養成課程の同窓会と、中国学園大学の同窓会を一体とするために催された集いであり、多くの卒業生の方々や先生方が出席されました。本大学の1期生となる私たち3年生も参加しました。

式では同窓会長のあいさつから始まり式典が行われました。参加された卒業生の方々は、久しぶりの友人や恩師との再会で楽しい時間を過ごすことができたのではないのでしょうか。また、私たちが在学生と卒業生の関わりが少しでも持てたのではないかと思います。同窓会は同じ大学を出ていながらも、通常では知り合うことが難しい年代の離れた人たちと仲間になることができるのだと思います。今回の同窓会総会を起点として、多くの卒業生や在



学生が同窓会活動に興味を持ち、これからの中国学園大学・中国短期大学の同窓会活動が活発になり、同窓会の輪が広がっていけばよいと思っています。

公開セミナー

第18回 横山 純子講師 (平成16.12.9, 16:30~, 1301教室)

「肝疾患例の栄養アセスメントについて」

肝があらゆる栄養素代謝の中心的臓器であることから、肝疾患例では栄養異常を認めることが多くあります。特にアルコール性肝障害や肝硬変例では、しばしば蛋白・エネルギー低栄養状態(PEM: protein-energy malnutrition)を呈します。近年、肝疾患の病態の成立や治療に栄養学的アプローチが積極的に試みられ、予後の改善や医療費への経済効果等が注目されています。

臨床において管理栄養士に期待されることとして、「栄養アセスメントが的確に行えること」「栄養アセスメントに基づいた栄養管理ができること」「栄養管理・教育の効果があがること」があげられます。

今回は、岡山大学医学部第一内科学教室で私がとりくんだ肝疾患例(肝細胞癌症例、非胆癌肝硬変症例)の栄養アセスメントについてお話し、最近の動向(管理栄養士の専門資格制度及び Nutrition Support Team 等)についても紹介しました。

